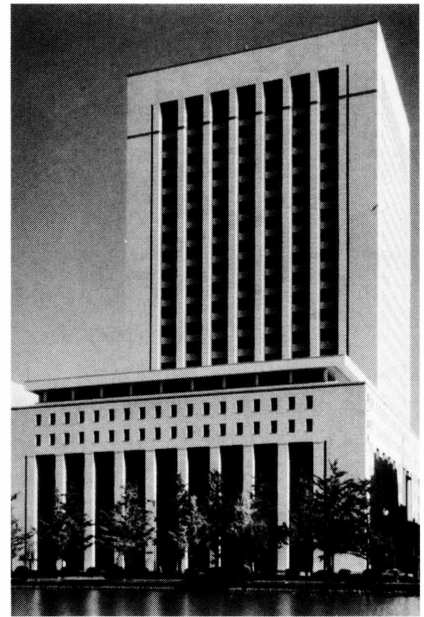


第7回 BELCA賞 ベストリフォーム部門 審査評

DNタワー21 (第一・農中ビル)

所 有 者 第一生命保険相互会社
農林中央金庫
改修設計者 清水建設株式会社一級建築士事務所
ケビン・ローチジョンディンケルーアンドア
ソシエイツアーキテクツ
改修施工者 清水建設株式会社
所 在 地 東京都千代田区有楽町1丁目13番1号、2号



DNタワー21は、丸の内の一街区の中の、昭和初期に五年の年月をおいて建設された二つの事務所建築を、一つの大きなオフィスビルに再構築するという、極めて意欲的な試みの計画である。二つの建物は、様式は異なるが、同じ設計者による本石張りのファサードをもち、それが長い間、街並みの構成要素として親しまれてきた。その街路に面した部分の表情をできる限り保ったまま、大きな床面積の高層事務所ビルを生み出すため、完全保存、部分保存、解体再構築という、異なる手法が同時に採用されている。完成した建築は、従来の街路と軒の高さの好ましい関係を保ちながらも、近代的な執務空間や豊かな共用空間、そして内部化された公開スペースを生み出している。これは、歴史的建造物の保存と再生に関する、様々な手法の博物館といってもよいであろう。

この改修にあたって特筆すべきことの一つに、関係者の見事な協調ぶりをあげることができる。このような計画には、施主・設計者・施工者等の間の優れた協働が必要なことは言うまでもないが、DNタワー21は、保険と金融という似たような機関とはいえ、性格の異なる組織の本社を共有しようというものであり、しかもその困難な条件を逆手にとって、会議室フロアの共同利用といった実質的な面にまで統合化された調和を求め、それが成功している。このような努力は、設備計画等にも反映され、一体化することによる省エネルギー化や、電源供給の信頼性向上のための、二重化された最新の受変電設備などに表れている。防災センターは集中化し情報通信設備は独立させるなど、優れた共生の考え方であると言える。

設計も、国際的な協働体制で進められ、海外の建築家の経験と感性が、日本の設計者と施工者の能力や技術力とあいまって、理想的な結果が得られている。企画から実現に至るまでの、これらのプロセスのソフト面だけでも賞賛に値するが、建設当時の石造の雰囲気保存再生には、様々な最新の建築技術が研究・開発されて適用されている。今後の維持保全に関しても、詳細な計画が立案されており、またGHQが使用していた当時の関連部分の保存・公開にも精力が傾けられている。

以上のように、DNタワー21は、リフォームにより画期的な活性化が図られ、また建築作品としても優れたものとなっており、BELCA賞ベストリフォーム部門の受賞作品としてふさわしいものである。

なお、この計画には、「歴史的建築物保存による特定街区」の手法が採用されている。